

社会教育学

教職課程科目／2単位／T授業

担当教員 登坂 学

■使用テキスト 関口礼子・小池源吾・西岡正子・鈴木志元・堀薫夫(著)
『新しい時代の生涯学習 第3版』有斐閣アルマ

◆参考テキスト 倉内史郎・碓井正久(編)『教育学演習叢書 改訂・新社会教育』学文社

講義概要・一般目標

社会教育学は「学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む）」と定義されます。

これから高校教員を目指そうという皆さんにとって、社会教育学は関係が薄いものと感じられるかもしれません。しかし、教育を「生涯にわたる学習」という側面から捉え直した場合、学校教育と社会教育の連携は不可欠です。例えば、戦前・戦後を通じて社会教育の優れた実践が学校区に根差した地域社会のなかで行われてきましたし、そのなかには学校教育に貴重なヒントを提供してくれる学習事例が数多く存在します。また、皆さんは高校「福祉」の免許取得を目指しているわけですが、福祉の観点から言えば、高齢社会を迎えた現在、高齢者福祉と社会教育の現場がどのように連携していくかが重要なテーマとなっています。更に、児童をめぐる昨今の悲惨な事件に関連し、児童福祉と社会教育の現場がどのように連携していくかも緊急の課題となっています。人生の目標、そして社会のさまざまな問題に立ち向かうために、あらゆる教育を総合的な視点で関係づけ、生涯にわたる学習活動を保証することが「生涯学習」の基本理念であるとすれば、社会教育学もそのなかで改めて輝きを放つことでしょう。

このような視点から、本講義では生涯学習の文脈のなかで、社会教育学の意義を考察することを根本のテーマに据えたいと思います。テキスト科目ではありますが、添削課題を通し、また他の教職科目とも関連付け、学生と繋がっていきたいと考えています。同時に、教員採用試験も考慮に入れ、実用性も重視していきたいと思っています。質問等は担当者まで気軽にメールをください。 登坂 学 tosaka@phoenix.ac.jp

到達目標

- 1) 専門職として相応しい社会教育学・生涯教育学の体系的知識を身につけ、重要事項について概要を確実に説明することができる。
- 2) 時代の変化やそこで発生する様々な問題を認識し、自発的・主体的な学習活動を通じてその解決方法を模索するための基礎力を身につける。
- 3) そのための重要な「場」としての公民館、図書館、博物館等の施設の概要を理解し、そのうえで利用し、使いこなし、参画するための基礎力を身につける。

評価方法

科目単位認定試験により評価する。

学習指導

第1章 今なぜ生涯学習がクローズアップされるのか

学校で教えてもらって学習する以外に、どのような学習があるのでしょうか？本章では、さまざまな学習を検証し、「生涯学習」という概念が生まれ、提唱されるようになった背景を学んでいきます。

第2章 人々は発達段階に応じて何を学ぶか

長い人生を過ごす中で、人はさまざまな問題・課題に向き合います。発達課題論や発達段階論の学説を学びながら、高齢期の発達課題を理解しましょう。

第3章 就職すると人はどのような学習をするのか

学校を卒業したからといって、すべての学習から解放されるわけではありません。むしろ、学校にいたとき以上に懸命に学習する必要がでてくるでしょう。ここでは企業内教育の事情を理解することを通じ、働くこと―学ぶこと―生きること、の関係を理解します。

第4章 情報からの学習

社会教育において、図書館は重要な手段の一つです。人々の生涯にわたる学習活動においては、図書館の有用性は更に増していきます。まず図書館の機能を正しく理解しましょう。

第5章 「もの」からの学習

ここでは社会教育・生涯学習施設としての博物館に注目します。古いものばかりが並んでいるように見える博物館は、私たちの日々の生活と結びついた学習の場である。博物館の機能やそこで働く人たちを知ること、地域住民は博物館とどのように付き合っていくべきか。一緒に考えてみましょう。

第6章 地域の間からの学習

地域には多くの学びの場が存在し、人々はそうした場を利用して様々な学習を行っています。ここでは人々の生涯学習の実態や、学習拠点の一つである公民館、そこで学びを支援する人たち、その課題について理解を深めます。

第7章 地域の人々の相互学習

地域には、NPO、ボランティア団体、社会教育関係団体等、住民が自発的に参加し、互いに学び合いながら活動する団体が数多く存在します。最近ではICTを活用して学ぶだけでなく、人と繋がり交流する機会も増えてきました。これらの特徴を明らかにし、人々が団体活動に参加することによる教育効果について考えます。

第8章 教育によらない強力な学習

宗教は、アイデンティティを構成する重要な要素といえますが、その教育的側面も見落とすことはできません。今まで学んできた学習の諸形態と比較してみましょう。

第9章 女性の生涯の変化は男女にどのような学習を求めるか

「男女共同参画社会」という言葉やスローガンを自治体の広報紙で見たことがあるでしょう。まずその背景を理し、実現のために個人レベルでの学習から社会制度までをどのように変えていけばよいのかを考えましょう。

第10章 人口の高齢化は学習をどう変えるか

人口の高齢化は、学びのあり方をどのように変えていくのでしょうか。実践例を通じて、高齢者の学習の特徴や学習の支援について考えます。

第11章 情報技術は学習をどう変えるか

IT技術が学習のあり方を変えつつあります。とりわけインターネットの活用は、学習の可能性を高めるのみならず、新しい人間関係の構築を促し、人と人との協調の場を提供してくれます。

第12章 グローバル化は学びをどう変えているのか

「グローバリズム」とは最近よく耳にする言葉ですが、それはどのような現象かうまく説明できるのでしょうか？この点を明確にしてから、グローバリズムが教育制度と学習にどのような影響を与えるか検証します。

第 13 章 学校を開くことと生涯学習

学校、とりわけ大学はこれまで「象牙の塔」と呼ばれ、世間からは隔絶された、閉ざされた世界のような印象がありました。生涯学習の概念は、そのような学校のあり方を転換させます。学校開放にはどのような形態があるのか、またそれは生涯学習にどのように寄与するのか考えます。

第 14 章 生涯学習の方法

改めて、生涯学習の方法を考えます。さまざまな類型を整理してから、特に参加型学習とワークショップに注目し、その特徴と可能性を考えます。

第 15 章 生涯学習の重視は社会の仕組みを変える

これまでの内容をおさらいし、生涯学習の可能性を今一度考えます。生涯学習の取り組みにおいて、学習支援者の存在がいかに重要であるか理解できるでしょう。